

令和4年度 学校評価シート

学校名：専修学校クラーク高等学院大阪梅田校

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	生徒一人ひとりの可能性を見つけ、才能を開花させる学校 1. 特化型コースで「好き」や「得意」を追求する生徒 2. 自ら考え、自ら学ぶ力を身に付け、何事にも主体的に行動できる生徒 3. 夢を見つけ、それに挑戦し、達成を目指す生徒
------------------------	--

本年度の重点目標	1 教育の質の向上（カリキュラム・マネジメント）と非認知能力を育む探究型授業の推進
	2 グローバル社会で活躍するための英語力の向上と未来を生き抜くための21世紀型スキルの育成
	3 特化型教育を実現するための環境整備と保護者や地域社会との積極的な連携による開かれた学校の実現

達成度	A	十分に達成した（80%以上）
	B	概ね達成した（60%以上）
	C	あまり十分でない（40%以上）
	D	不十分である（40%未満）

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 評価項目に対応した具体的な方策と方策の評価指標を設定する。

※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

※ 学校関係者評価委員会は、元兵庫県教育次長・保護者代表・卒業生代表で構成した。

自 己 評 価						
年 度 目 標					年 度 評 価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善方策
1	現状＞ICT教材を用いた個別最適な学習の取組は、一部の教科・科目にとどまった。探究学習は、総合進学コースを中心に進めることができたが、生徒自らが課題解決に取り組む姿勢はまだ弱く、自主的に探究を進められるには至っていない。 課題＞ ・個別最適な学習の推進 ・コース授業の内容の充実 ・探究学習の充実	個々の成長を可視化できる仕組みを構築する。	定期的の確認テストを行い、効果を測定する。	・定期的な実施ができたか。 ・個々の効果測定ができたか。	・教科により差はあったが、概ね定期的に実施ができた。 ・効果測定には体制の構築が必要である。	B
		実施している授業の定期的な見直しと検討を実施する。	定期的な授業参観及び授業アンケートを実施し、授業改善を図る。	・定期的な実施ができたか。 ・適切なフィードバックの実施ができたか。	・定期的な実施ができた。 ・リアルタイムなフィードバックまでには至っていない。	B
		21世紀型スキルを意識した授業改革を進める。	各コース・教科での探究学習を計画的に推進し、PBL型授業の充実を図る。	・主体的・対話的で深い学びが実践できたか。 ・主体的に学びに取り組む態度の育成が図られたか。	・大半の授業において様々な工夫をした取組が実施できていた。 ・生徒の主体性が向上してきている。	A
2	現状＞生徒が意欲的に取り組めるように授業を工夫し、生徒の英語力の向上に努めたい。特に英語に対する苦手意識の強い生徒への指導、支援を強化する必要がある。 課題＞ ・英語の授業の更なる充実 ・ICT教材の効果的活用 ・英検合格者数の増加 ・生徒同士で学び合える学習会の実施	英語4技能の習得を目的とした独自の英語教育を実現する。	英語の授業の内容の充実と4技能に基づいた担当指導教員を配置する。	・英語力の向上が図られたか。 ・効率的な授業展開ができたか。 ・生徒の満足度が向上したか。	・4技能がバランスよく向上してきた。 ・生徒の満足度が向上したとは必ずしも言えない。	B
		補講等の時間を利用し、自主的に学習に取り組める環境を整える。	朝学習での単語の学習時間を確保するとともに、放課後には対策講座や英検受験指導を実施する。	・継続的な活動ができたか。 ・生徒のニーズに合わせた講座の開設ができたか。	・朝学習での単語の学習時間は十分に確保できないこともあったが、放課後補講は複数のレベルで継続的に実施することができた。	B
		生徒個々の目標を設定し、合格までの計画的な対策を立てる。	年度当初に一人別の目標設定を行い、英検については第1回目から全員受験を実施する。	・適切な目標の設定ができたか。 ・英検全員受験は実施できたか。 ・合格までの計画的な対策ができたか。	・適切な目標設定ができていなかった。 ・英検全員受験は実施できたが、目標とする合格実績は出せなかった。	B
3	現状＞昨年度に引き続き各コースの特性に合わせた教室配置と備品等も含めた環境整備に努めた。今年度もコロナ禍が継続しており、保護者を含め外部の方を校内に招くことには一定の規制が必要であるが、対面とオンラインを併用した説明会や保護者会等を充実させていきたい。 課題＞ ・充実した学びの環境の提供 ・関係機関と連携した活動の推進 ・保護者への情報公開	コースの特性に合わせた環境の整備と充実した教育備品の設置を進める。	ICT教育・オンライン授業の更なる充実のためのWi-Fi環境の整備を進める。	・ストレスなく授業展開できたか。 ・テクノロジーを活用した効率的な学びが実現できたか。	・時間や場所によって不具合が生じることもあったが、必要に応じて教室変更等を行いながら実施した。	B
		オンラインを活用し、大企業・地域とつながる仕組みを構築する。	オンライン型の連携授業やイベントを企画・実行し、対外的にアピールする。	・オンライン型のイベントの実施ができたか。 ・生徒の活動をアピールできたか。	・遠隔地からの連携授業や独自のイベントをオンラインで配信することができ、生徒の活動をアピールすることができた。	A
		生徒の活躍をリアルタイムに配信できる仕組み（ICTの活用）を作る。	ICTツールやオンラインを活用した情報配信と保護者会の定期的な開催に努める。	・保護者会、情報配信の定期的な実施ができたか。 ・ICTの活用が十分にできたか。	・メールやClassiによる定期配信ができた。 ・オンラインを活用した保護者会や説明会を複数回実施した。	A

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 令和 5 年 10 月 13 日
学校関係者からの意見・要望・評価等
1. 昨今のICT教材は昔とは違うことは理解しているが、それだけに頼らず、生徒と教師との対話を疎かにしないように、不易の教育にしっかりと対応した上で、新しい教育には積極的にチャレンジして欲しい。新しい教育への挑戦には、先生方のスキルが求められるが、研修を実施し対応できていることは良いことである。 2. ICT教育等の机上での学習も大切だが、アフターコロナの世界ではもっと体験授業を増やすことが大切ではないか。野外活動等を通じて子ども同士が繋がっていく活動内容が必要であり、人との対話を大切にしたい。 3. ボランティア活動では、楽しいだけではなく、主体性や協働性が身に付いていることは評価ができる。生徒支援を充実することが大切である。 一人一人が笑顔で学べる環境づくりが学校運営上、大切であり、子どもたちが次に進める体制づくりをお願いしたい。